

## 目次

1	形容詞 (Adjektiv) の格変化	1
1.1	定冠詞 (bestimmter Artikel) + 形容詞 + 名詞 (Substantiv)	2
1.2	定冠詞類 + 形容詞 + 名詞	2
1.3	不定冠詞 (unbestimmter Artikel) + 形容詞 + 名詞	3
1.4	不定冠詞類 + 形容詞 + 名詞	3
1.5	(無冠詞 +) 形容詞 + 名詞	3
2	分詞 (Partizip)	4
2.1	現在分詞	4
2.2	過去分詞	4
2.3	未来分詞	5
2.4	冠飾句	5
3	演習問題	5
3.1	取り組み方	5
3.2	事前チェック	6
3.3	未習事項の解説	6
3.4	問題	8
3.5	正答	9

## 1 形容詞 (Adjektiv) の格変化

「形容詞」にはそもそも

1. Erika ist **schön**. (エリカは美しい) 述語的用法；格変化なし
2. Erika singt **schön**. (エリカは美しく歌う) 副詞的用法；格変化なし
3. Erika ist ein **schönes** Mädchen. (エリカは美しい女の子だ) 付加語的用法；**格変化あり!**

という3つの用法があり、中でも注意して学ばねばならないのは「名詞と連動することにより格変化を伴う付加語的用法」である。ドイツ語の文章を正しく解釈できるためには、形容詞の格変化の習得が不可欠である。

もっとも、ドイツ語における形容詞の格変化パターンは

1. 定冠詞 (類) + 形容詞 + 名詞
2. 不定冠詞 (類) + 形容詞 + 名詞
3. (無冠詞 +) 形容詞 + 名詞

の「3つ」しか存在しないので、まずはこれら「3つの変化の仕組み」をよく理解し、その上で各自の脳の長期記憶領域に刻み込むこと。なお、形容詞に付く格変化語尾は、形容詞が一つであっても、二つ以上並んでいても、全く同じである。

形容詞 (Adjektiv), 名詞 (Substantiv), 冠詞 (Artikel), 分詞 (Partizip), 単数 (Singular), 複数 (Plural), 男性 (m: maskulin), 女性 (f: feminin), 中性 (n: neutral) そして1格 (Nominativ), 2格 (Genitiv), 3格 (Dativ), 4格 (Akkusativ) といった文法術語もそろそろ覚えたい。

lila, oliv, rosa など色を表す形容詞で外来名詞に由来するものは、付加語的に用いられた場合でも「無変化」である

(例: eine lila Blume リラ色の花, ein rosa Kleid ピンク色のワンピース, 等々) ことに注意\*1。「地名 + er」で作られる形容詞も同じく無変化 (例: Münchner Bier ミュンヘン産ビール, 等々)。

### 1.1 定冠詞 (bestimmter Artikel) + 形容詞 + 名詞 (Substantiv)

「定冠詞 + 形容詞 + 名詞」の格変化については「表 1」をよく学ぶこと。

格変化のロジックは「定冠詞の格変化語尾」の中に全て含まれている (n の 1, 4 格のみ変種となっていることに注意)。つまり, 1 から 4 格の順に「m では er, es, em, en; f では e, er, er, e; n では es\*2, es, em, es; Pl では e, er, en, e」が「肝となる格変化語尾」である。

従って, 記憶術として, これらが既に冠詞の中に含まれていれば形容詞には「弱変化語尾 -en」を付加し, 含まれていなければそれを補うべくこれら「肝となる格変化語尾」を付加する, と覚えれば良い。これが大原則。

ただし (残念なことに)「例外」が存在するので, その例外箇所だけは「自分の脳が納得する形」(これは人それぞれ)で理解することが肝要。

例外は「m1, f1, f4, n1, n4」の 5 つの語尾である。

表 1 「定冠詞 + 形容詞 + 名詞」の格変化

	Sg			Pl
	m	f	n	
Nom.	der gute Mann	die gute Frau	das gute Kind	die guten Kinder
Gen.	des guten Mann[e]s	der guten Frau	des guten Kind[e]s	der guten Kinder
Dat.	dem guten Mann	der guten Frau	dem guten Kind	den guten Kindern
Akk.	den guten Mann	die gute Frau	das gute Kind	die guten Kinder

かつて m そして n の 3 格では Manne そして Kinde という形も見られたが, 今ではほぼ使われない (が, zu Hause や nach Hause といった chunk = ひとかたまりで意味をなす表現にその痕跡を留めている)。

### 1.2 定冠詞類 + 形容詞 + 名詞

dieser (この), jener (あの), aller (全ての), jeder (各々の), welcher (どの), mancher (いくつかの), solcher (そのような) においても形容詞の格変化は定冠詞における場合と「全く同じ」であるが, これら「定冠詞類」自身の変化 (特に中性!) にも注意せよ。

「定冠詞類 + 形容詞 + 名詞」の格変化については「表 2」をよく学ぶこと。

表 2 「定冠詞類 + 形容詞 + 名詞」の格変化

	Sg			Pl
	m	f	n	
Nom.	dieser gute Mann	jene gute Frau	jedes gute Kind	manche guten Kinder
Gen.	dieses guten Mann[e]s	jener guten Frau	jedes guten Kind[e]s	mancher guten Kinder
Dat.	diesem guten Mann	jener guten Frau	jedem guten Kind	manchen guten Kindern
Akk.	diesen guten Mann	jene gute Frau	jedes gute Kind	manche guten Kinder

\*1 名詞 (句) を挙げる際にはこのように常に 1 格形を用いる。動詞 (句) の場合は不定詞 (句) にする (例: ins Kino gehen 映画 [を見] に行く)。

\*2 定冠詞 n1/n4 の das は es となっていないが, これは「変種」と見做す。

### 1.3 不定冠詞 (unbestimmter Artikel) + 形容詞 + 名詞

「不定冠詞 + 形容詞 + 名詞」の格変化については「表 3」をよく学ぶこと。「肝となる格変化語尾」については第 1.1 節 (2 ページ) で説明した事柄と全く同じ。今回の例外は「f1, f4」の 2 つの語尾のみ。

不定冠詞 (= そもそも一つを意味する) は「複数 (= 二つ以上) では無冠詞となる」理屈も良く理解すること。

表 3 「不定冠詞 + 形容詞 + 名詞」の格変化

	Sg			Pl
	m	f	n	
Nom.	ein guter Mann	eine gute Frau	ein gutes Kind	gute Kinder
Gen.	eines guten Mann[e]s	einer guten Frau	eines guten Kind[e]s	guter Kinder
Dat.	einem guten Mann	einer guten Frau	einem guten Kind	guten Kindern
Akk.	einen guten Mann	eine gute Frau	ein gutes Kind	gute Kinder

### 1.4 不定冠詞類 + 形容詞 + 名詞

mein (私の), dein (君の), Ihr (あなたの; あなた方の), sein (彼の; それの), ihr (彼女の; 彼ら/彼女ら/それらの), unser (私たちの), euer (君たちの) といった「所有冠詞」および kein (……ない) の「否定冠詞」は、不定冠詞とほぼ全く同じ格変化をする。

これら「不定冠詞類 + 形容詞 + 名詞」の格変化については「表 4」をよく学ぶこと。不定冠詞そのものとは異なり「不定冠詞類には複数があり得る」理屈も良く理解すること。この場合の冠詞および形容詞の格変化は「定冠詞」の場合に倣う。

また (文法ではなく) 「発音」の都合で eu[e]re, uns[e]re のように e が「落ちる」場合もあることに注意。

表 4 「不定冠詞類 + 形容詞 + 名詞」の格変化

	Sg			Pl
	m	f	n	
Nom.	ihr guter Mann	eu[e]re gute Frau	unser gutes Kind	keine guten Kinder
Gen.	ihres guten Mann[e]s	eu[e]rer guten Frau	uns[e]res guten Kind[e]s	keiner guten Kinder
Dat.	ihrem guten Mann	eu[e]rer guten Frau	uns[e]rem guten Kind	keinen guten Kindern
Akk.	ihren guten Mann	eu[e]re gute Frau	unser gutes Kind	keine guten Kinder

### 1.5 (無冠詞 +) 形容詞 + 名詞

「(無冠詞 +) 形容詞 + 名詞」の格変化については「表 5」をよく学ぶこと。「肝となる格変化語尾」については第 1.1 節 (2 ページ) で説明した事柄と全く同じ。そして、今回は、特に m/n Sg の 2 格に付く格変化語尾に注意!

m/n Sg の 2 格語尾については次のように考えると良い。仮に「肝となる格変化語尾」を理屈通りにあてがってみると「gutes Wein[e]s, gutes Bier[e]s」のように「鋭い s 音が連続」して出現することになるが、これは、やや「耳障り」でもある。2 格であることは「そもそも m2/n2 自身に付く -[e]s」で必要十分に示される<sup>\*3</sup> ので形容詞語尾は弱変化の

<sup>\*3</sup> 鋭い皆さんの中には「んじゃ、Junge や Löwe といった男性弱変化名詞は 2 格が Jungen や Löwen のように -en で終わるんで、この場合は形容詞の格変化語尾を -es にしてやらんといかんのじゃね?」と思った方がいらっしゃるかも。しかし、この場合でも、形容詞の格変化語尾は guten Jungen そして schönen Löwen のようにあくまで -en となるので、ここは皆さんの脳を「そういうことになつとる」と納得させてやって欲しい。

-en で良いではないか？！

なお Wein, Milch, Bier といった「物質名詞」は（容器に入れない限り数えられない）「不加算名詞」なので、通常「不定冠詞なし」の単数で用いられる。複数形は「異なった種類を表す」場合に用いられる。

表 5 「(無冠詞 +) 形容詞 + 名詞」の格変化

	Sg			Pl
	m	f	n	
Nom.	guter Wein	gute Milch	gutes Bier	gute Biere
Gen.	guten Wein[e]s	guter Milch	guten Bier[e]s	guter Biere
Dat.	gutem Wein	guter Milch	gutem Bier	guten Bierem
Akk.	guten Wein	gute Milch	gutes Bier	gute Biere

## 2 分詞 (Partizip)

動詞は「分詞」という形を取ることで「形容詞」としても用いられる。分詞は形容詞でもある\*4から、当然、名詞と連動する場合「格変化」が起こる。

分詞は alt や jung といったような純粋な形容詞とは異なり「動詞の要素」も保ち続けているので、その動詞本来の用法に由来する「冠飾句」(erweitertes Partizip) を伴うことがあることにも注意。

ドイツ語の分詞には

1. 現在分詞 (Partizip Präsens)
2. 過去分詞 (Partizip Perfekt)
3. 未来〔受動〕分詞 (Gerundivum)

の3つがある。

### 2.1 現在分詞

動詞 (不定詞) の語幹に -end (-eln や -ern で終わる動詞では -nd) をつけると現在分詞となる。

例: liebend, sprechend, seiend, habend, handelnd, wandernd, etc.

意味は「(継続する) 能動 = ……している」。

現在分詞としての形容詞は、原則として「付加語」的に名詞と連動して用いられ (例: Das ist ein **sprechendes** Pferd.), 「述語としては用いられない」。つまり, Er ist **sprechend**. というようには使えない。英語の He is speaking. のように「現在進行形」を作ることも「ない」ことに注意すること。

ただし、原義を離れ「(純粋な) 形容詞」になってしまった (元) 現在分詞の場合は「述語としても使用可能」である。

例: Er ist **abwesend**. (彼は欠席している) 他にも **anwesend** (出席している), **anstrengend** (骨の折れる), **auffallend** (目立つ), **ausschlagend** (決定的な), **bedeutend** (重要な), **befriedigend** (満足すべき), **entscheidend** (決定的な), **entzückend** (魅惑的な), **kennzeichnend** (特色的な), **leidend** (病身の), **maßgebend** (決定的な), **spannend** (興味津々の) 等々がある。

### 2.2 過去分詞

規則動詞の場合は「語幹を ge- と -t でサンドイッチ」して作る (例: **geliebt, gewandert**)。発音の都合で e を挿入する (例: **gearbeitet**)。分離動詞の過去分詞は動詞の基底部分を ge- -t で挟み、分離前綴りはその前に置く (例: **abgesagt**)。

\*4 分詞とは、動詞と形容詞の性質を「分かち持つ品詞」と覚える。

不規則動詞の過去分詞は(既に知っている／まだ知らない, の世界なので) 辞書で確認する(例: gebunden, geflogen, gefahren, gelegen, angekommen, ausgegeben, etc.)。

1. 他動詞の過去分詞は「……されている」(受動の完了) の意
2. sein 支配の自動詞の過去分詞は「……してしまった」(能動の完了) の意

例: ein möbliertes Zimmer (家具付きの部屋; möblieren (vt) 部屋に家具を入れる), das ertrunkene Kind (その溺死した子; ertrinken (vi) 溺死する) 等々。

注: ein schlafender Junge (一人の眠っている少年), das eingeschlafene Mädchen (その寝入ってしまった少女) は OK だが, ein geschlafenes Mädchen は NG であることを理解せよ! (schlafen は haben 支配の自動詞で「(現在) 眠っている」の意で継続態, この動詞は完了態足り得ない!)

## 2.3 未来分詞

他動詞の現在分詞に zu を付けたものを「未来分詞」(未来受動分詞とも) と呼ぶ。これは「受動の可能」(……され得る) または「受動の当為」(……されるべき) を表す (sein + zu 不定詞と同じ)。

例: eine schwer zu beantwortende Frage (一つの難しく答えられ得る問い=答えにくい質問), die zu bewältigenden Hindernisse (それらの克服されるべき障害=乗り越えねばならない障害) 等々。

## 2.4 冠飾句

以下の諸例を, 「なぜそのような形容詞の格変化語尾が付くのか」よく考え, 注意深く学ぶこと。なお, イタリック部分が「冠飾句」となっている。

1. Da ist ein *laut um Hilfe* schreiendes Kind. (あそこに一人大声で助けを求めて泣き叫んでいる子がいる)
2. Die *im Krieg durch Bomben* zerstörte Stadt war ein schrecklicher Anblick. (戦争時爆撃によって破壊されたその町はおぞましい光景であった)
3. Ich habe einen *sofort zu erledigenden* Auftrag erhalten. (私は直ぐにも片付けねばならない課題を受け取った)

## 3 演習問題

### 3.1 取り組み方

1. この演習問題の目的は「形容詞の格変化」を確実に自分のモノにすること
2. 急ぐ必要はないので, じっくり取り組み, 完遂すること
3. 必ずまず自分の頭で考え, その後「正答」を確認し, 自分の考えが正しかったかどうかチェックする, というプロセスを経ること
4. ここでいう「自分の考え」とは, 「ここはこうなつてこうで, そののそれとこのようにつながるから, 格変化語尾は -en しか有り得ない」というような論理的思考を経て導き出される答を指す
5. 従って, 「よく分からんけど, とりあえず -en でも入れとこか」というような当てずっぽうでの答が正答となつたとしても無意味
6. 自分の頭で考えた答が間違っても無問題
7. 重要なことは, 正答がなぜ正答であるのか, そして自分の答はなぜ間違っていたのかを「100% 理解すること」
8. その際「分かつたつもり」も無意味, 完全に理解することが重要
9. よーく考えて, そしてさらによーく考えて, それでもやはりよく分からない場合は, 永田まで遠慮なくメールで問い合わせること
10. 問題そのものは手加減のない本物のドイツ語であり, 未習の文法事項も若干出てくるが, 必要な解説はするので心配無用

11. それなりの量 (長さ) もあるので, 自分で学習計画を立て (例えば 3 日間に分割して取り組む等々), とにかく最後まで「やり切る」こと
12. 形容詞の格変化を確実に自分のモノにするためには, 本演習問題の量 (長さ) も一種の「必然」であることを理解して欲しい

## 3.2 事前チェック

- ✓ 定冠詞 (類) + 名詞 (Sg/Pl とも) の格変化をマスターしている
- ✓ 不定冠詞 (類) + 名詞 (Sg/Pl とも) の格変化をマスターしている
- ✓ 定冠詞 (類) + 形容詞 + 名詞 (Sg/Pl とも) の格変化の仕組みを理解した
- ✓ 不定冠詞 (類) + 形容詞 + 名詞 (Sg/Pl とも) の格変化の仕組みを理解した
- ✓ (無冠詞 +) 形容詞 + 名詞 (Sg/Pl とも) の格変化の仕組みを理解した
- ✓ 動詞の 3 基本形 (不定詞/過去基本形/過去分詞) を自分で調べられる
- ✓ 自動詞/他動詞の区別を自分で調べられる
- ✓ 動詞を, 全ての人称 (Sg/Pl とも) について, 現在人称変化させることができる
- ✓ 動詞を, 全ての人称 (Sg/Pl とも) について, 過去人称変化させることができる
- ✓ 前置詞の各支配について理解している

## 3.3 未習事項の解説

### 3.3.1 現在完了形 (Perfekt)

- 問題の中に登場する実際の例文: In den südamerikanischen und afrikanischen Urwäldern **hat** in den letzten Jahren eine ökologische Tragödie **begonnen**. [beginnen(vi): 始まる]
- 構文: haben または sein の現在人称変化 + ... + 過去分詞
- haben/sein の使い分け: 他動詞はほぼ全て haben 支配 (eingehen のような稀な例外もないわけではないが), 場所の移動 (gehen, fahren など) や状態の変化 (werden, sterben など) を意味する自動詞は sein 支配, また場所移動・状態変化を意味しないにも拘らず sein, bleiben, begegnen も sein 支配, これら以外の自動詞は全て haben 支配. 以上が haben/sein の使い分けに関するロジックであるが, 辞書を引けばその動詞が haben/sein のどちらを支配するのかちゃんと書いてある (ので参照せよ)
- 過去の出来事を「客観的に過去の出来事」として描写する際 (例えば「小説」や「物語」の中などで) は「過去形 (Präteritum)」(これは既習) を使う<sup>\*5</sup>
- これに対し, 過去の出来事を「主観的に (あるいは心情的に) 現在と結びつけて」描写する際は「現在完了形」を用いる<sup>\*6</sup>
- 日常会話 (口語) では, 従って, 過去の出来事は通常「現在完了形」で表現される<sup>\*7</sup>
- haben は haben 支配, sein は sein 支配. つまり, haben/sein 「そのもの」を本動詞として使った場合, 完了形を構成するために使う助動詞も haben/sein となり「うるさい」ので, 上に述べた原則から離れ, haben/sein の本動詞を使って過去の出来事を描写する際は, 通常, 「過去形」が用いられる<sup>\*8</sup>
- 同様に, haben 支配である「話法の助動詞 (Modalverben)」を本動詞ではなく助動詞として用いる場合, 過去分詞は「不定詞と同形」になり, この場合も完了形を構成すると「うるさい」ので, やはり過去の出来事の描写に

<sup>\*5</sup> Es **war** einmal ein alter König. (昔々一人の年老いた王様がおりました)

<sup>\*6</sup> Ich **habe** ihm vor zwei Wochen einen langen Brief **geschrieben**. (私は 2 週間前に彼に一通長い手紙を書いた [けど, 彼からは今も全く返事が来ない……ブンブン……])

<sup>\*7</sup> 普段あまり意識しないかも知れないが, 我々が日常会話で過去のことを話す場合, それは大抵「現在」と結びついている。逆に言えば, 現在と結びつかない過去の出来事を日常会話で (唐突に) 話題にすることは無い (例: 「おい, お前, フランス革命は 1789 年に勃発したぞ!」「そうだったな. 昔々赤ずきんがおりました」などという会話は通常有り得ない) という事。

<sup>\*8</sup> Damals **bin** ich Student **gewesen**. や Damals **habe** ich das Buch **gehabt**. でなく Damals **war** ich Student. や Damals **hatte** ich das Buch. で良い。



は通常「過去形」が用いられる\*9

- 文字通り「完了」という意味合いで現在完了形が用いられることもある

Mein Freund **ist er gewesen**. (彼は私のボーイフレンドだった [= が今ではそうじゃない!])

Regnet es noch? – Nein, es **hat geregnet**. (まだ雨は降ってるのかい? — いや, 降ってしまった [= もう止んでいる!])

### 3.3.2 副文 (Nebensatz)

1. 副文の対概念は「主文 (Hauptsatz)」
2. 主文では「定動詞」第 2 位
3. 副文では定動詞が「副文末」
4. 主文と副文は必ずコンマで区切る
5. 実際の例文: Es ist verständlich, **dass** man diese unbewohnten Gebiete nutzbar machen wollte. 最初の es は dass 文以下を (先取りして) 受ける「形式主語」, 副文を主文の前に出して **Dass** man diese unbewohnten Gebiete nutzbar machen wollte, ist verständlich. としても良い。この場合, 形式主語の es は消え, 副文全体を「第 1 位」と考えると主文における定動詞 ist は確かに第 2 位にあることが分かる
6. dass の他, 問題文中では wie (どのようにして……なのか [ということ]) と nachdem (……した後で) も副文を導いていることに注意

### 3.3.3 受動態 (Passiv)

- 対概念は「能動態 (Aktiv)」
- 実際の例文: Auf einer Fläche von mehreren 10.000 Quadratkilometern **wurden** sämtliche uralten Bäume **abgeholzt** oder **abgebrannt**.
- 構文: werden + ... + 過去分詞
- 受動態に用いられる助動詞 werden を現在人称変化させると「受動態現在形」, 過去人称変化させると「受動態過去形」(上例) となる
- 受動態の助動詞 werden の過去分詞は worden\*10 で sein 支配, つまり, 受動態を完了形にする場合は「sein + ... + 過去分詞 + worden」という構文になる
- 上の場合, sein を現在人称変化させると「受動態現在完了形」, 過去人称変化させると「受動態過去完了形」となる
- 例文 (実際の例文では定関係代名詞と共に用いられた過去完了形の副文となっているが, 便宜のため現在完了形の主文に変更してある): Der Boden **ist** mit so großer Mühe **bearbeitet worden**. その土地はあんなにも苦勞して開墾された。

### 3.3.4 過去完了形 (Plusquamperfekt)

- 構文: haben または sein の過去人称変化 + ... + 過去分詞
- 文語 (書き言葉) で, 「過去形」とセットで用いられる
- 具体的には「過去に属する 2 つ (以上) の出来事のうち, どちらが先 (これが過去完了形で表現される) でどちらが後 (こちらには過去形を用いる) であるのかをハッキリ」させたい場合に用いられる
- 例文 (簡便にアレンジしてある): Auf dem Boden **wuchs** nichts mehr. その土地の上にはもはや何も育たなかった (過去形). Der Boden **war** mit so großer Mühe **bearbeitet worden**. その土地は (それ以前に) あんなにも苦勞して開墾されていた (過去完了形の受動態)。

\*9 Ich **habe** Deutsch sprechen **können**. でなく Ich **konnte** Deutsch sprechen. で良い。本動詞だと Ich **habe** Deutsch **gekonnt**. Ich **konnte** Deutsch. となる。過去分詞が助動詞の場合と異なっていることに注意!

\*10 sein 支配の本動詞 werden (……に成る) の過去分詞は geworden であることに注意。例: Es ist spät **geworden**. 遅い時刻になってしまった。

### 3.3.5 関係代名詞 (Relativpronomen)

- 先行詞 (=先行する名詞) を詳しく説明する形でぶら下がる副文の中で用いられる代名詞の一種で、定関係代名詞ともいう
  - 定関係代名詞の格変化については「表 6」をよく学ぶこと；特に「定冠詞との異同」箇所をチェックすること
  - 定関係代名詞の格変化は「指示代名詞 (Demonstrativpronomen)」の格変化と全く同じだが、「前者は副文内で用いられ、後者は主文内で用いられる」という違いがある
  - 先行詞のない関係代名詞 (wer: ……である人は誰でも； was: ……であるモノは何でも) は「不定関係代名詞」と呼ばれる
  - 不定関係代名詞の格変化については「表 7」にまとめてある（「問題」の中には出てこない）
  - 定関係代名詞の性・数は、先行詞の性・数と同じ
  - 関係代名詞の格は、関係代名詞が含まれる副文の中での格となる
  - 関係代名詞が含まれる文は副文；定動詞は後置
  - 実際の例文：Auf dem Boden, **der** mit so großer Mühe bearbeitet worden war, wuchs nichts mehr.
  - 例文 (少々アレンジ)：Die herabfallenden Blätter und Äste bilden ausreichenden Dünger für die Bäume, **deren** weit ausgebreitete Wurzeln flach unter dem Sandboden liegen.
  - 不定関係代名詞の wer は男性，was は中性の扱いで，いずれも単数<sup>\*11</sup>
- 例文：(以下，[……] 箇所は「省略可能」を表す)

1. **Wer** gute Freunde hat, [der] ist glücklich<sup>\*12</sup>. (良い友人を持つ者は幸せだ)
2. **Wessen** Hausarbeit noch nicht fertig ist, **der** soll sie nächste Woche abgeben<sup>\*13</sup>. (宿題がまだ終わってない者は来週提出するように)
3. **Wem** du vertraust, **der** wird dir nicht immer helfen. (君の信頼する人がいつも君を助けてくれるとは限らないだろう)
4. **Wen** du liebst, [den] möchte ich einmal sehen. (私は君の愛する人に一度会ってみたい)
5. **Was** unser Lehrer sagt, [das] ist nicht immer richtig<sup>\*14</sup>. (私たちの先生の言うことはいつも正しいとは限らない)
6. Das ist **alles**, **was** ich darüber weiß<sup>\*15</sup>. (これがそのことについて私が知っている全てだ)

表 6 「定関係代名詞」の格変化

	Sg			Pl
	m	f	n	
Nom.	der	die	das	die
Gen.	<b>dessen</b>	<b>deren</b>	<b>dessen</b>	<b>deren</b>
Dat.	dem	der	dem	<b>denen</b>
Akk.	den	die	das	die

表 7 「不定関係代名詞」の格変化

	人	モノ
Nom.	wer	was
Gen.	wessen	–
Dat.	wem	–
Akk.	wen	was

## 3.4 問題

下線部に格変化語尾を補え。

\*11 一方、疑問代名詞 wer は複数扱いでも用いられる。例：Wer **sind** sie? 彼等は誰ですか？

\*12 同格 (今の場合は 1 格) の指示代名詞は省略可。

\*13 不定関係代名詞 2 格・指示代名詞 1 格のように異格の場合、指示代名詞は省略不可。

\*14 不定関係代名詞 4 格・指示代名詞 1 格のように異格であっても、異格同士が同形 (今の場合 was(1) = was(4); das(1) = das(4)) であれば指示代名詞は省略可。

\*15 不定関係代名詞の was は alles, etwas などの不定代名詞を先行詞とすることもある。



In den südamerikanisch\_ und afrikanisch\_ Urwäldern hat in den letzt\_ Jahren eine ökologisch\_ Tragödie begonnen. Die Zerstörung des brasilianisch\_ Urwalds soll hier als warnend\_ Beispiel stehen: Brasilien, ein Land mit stark zunehmend\_ Bevölkerung, braucht für viel\_ Millionen unterernährt\_ Menschen neu\_ Landwirtschaftsgebiete. Nun gibt es am Amazonas riesig\_ Urwälder und es ist verständlich, dass man diese unbewohnt\_ Gebiete nutzbar machen wollte.

Auf einer Fläche von mehrer\_ 10.000 Quadratkilometern wurden sämtliche uralt\_ Bäume abgeholzt oder abgebrannt und die neu\_ Siedler, arm\_ Leute aus den unter\_ Schichten der Bevölkerung, begannen mit ihrer schwer\_ Arbeit. Im erst\_ Jahr bekamen sie reich\_ Ernten, das zweit\_ Jahr brachte schon geringer\_ Erträge und im darauf folgend\_ Jahr zeigte sich eine schrecklich\_ Katastrophe. Auf dem Boden, der mit so groß\_ Mühe bearbeitet worden war, wuchs nichts mehr. Alle jung\_ Pflanzen verwelkten, die neugesät\_ Saat vertrocknete im unfruchtbar\_ Boden. Etwas Unerwartet\_ war geschehen? Nein! Der schön\_ Plan der brasilianisch\_ Regierung war ein schwer\_ Irrtum! Erst jetzt begann man mit geologisch\_ Untersuchungen des Urwaldbodens und musste feststellen, es ist Sand, locker\_, trocken\_ Sand!

Die Frage ist nun, wie solche riesig\_ Bäume auf diesem sandig\_ Boden überhaupt wachsen konnten. Nach unseren neuest\_ Erkenntnissen geschieht das so: In dem feucht\_ und heiß\_ Klima vermodern (= verwesen, verfaulen) herabfallend\_ Blätter und Äste sehr schnell und bilden ausreichend\_ Dünger für die Bäume, deren weit ausgebreitet\_ Wurzeln flach unter dem Sandboden liegen.

Nun hatte man aber alle jahrhundertalt\_ Bäume abgeholzt; im weit\_ Umkreis von viel\_ Kilometern war kein einzig\_ Baum stehen geblieben, so dass die täglich\_ Sonnenhitze und schwer\_ Regenfälle den schutzlos\_ Boden zerstörten. Nachdem die Siedler nach Ablauf des dritt\_ Jahres ihr unfruchtbar\_ Land wieder verlassen hatten, blieb nichts zurück als eine tot\_ Wüste.

[参考：ドイツ語問題文の（直訳調）和訳]

南米そしてアフリカの原生林では、ここ数年の間に、ある生態系的悲劇が始まっている。ここではブラジル原生林の破壊に警告例として立ってもらおう（＝破壊を警告例として見てみよう）：（つまり）急激な人口増加を抱えるブラジルは、何百万人もの栄養不良の人々のために、新たな農場地域が必要だと言うのだ。さてアマゾン河流域には巨大な原生林があり、これら人の住んでいない地域を活用してみようと考えたとしても、そのことは理解できる。

数万平方キロメートルから成るある平野では、古木という古木が切り倒され、あるいは焼き払われ、そして新しい入植者達が、つまり下層の住民達から成る貧しい人々が、彼らの過酷な労働（＝開墾）を開始したのである。初めの年、彼らは豊かな収穫を手にした。二年目にはもう初年度よりも少ない収穫となり、三年目は凄まじい大災害となった。あんなにも苦勞して開墾された土地の上には、もはや何も育たなかったのである。あらゆる苗は萎びてしまい、新たな播種は不毛な土壌の中で干からびていった。（こうした結果になる前に）何か想定外のことが起きていたのだろうか？ いや、ブラジル政府のご立派な計画が（そもそも）重大な誤りであったのだ！ ここへきてようやく原生林の土壌に関する地質学上の調査が始まったが、それは砂、ぼろぼろの乾いた砂であると査定するよりほかなかったのである！

（こうしたことが分かった）今、問いは、こうした砂の土地にそもそもどのようにしてあのような巨木が育つことができたのか、ということになった。我々の最新の知見によれば、これは以下の事情による：（つまり）湿気が多く暑い気候においては落葉と落枝が急速に腐朽することで木々にとっての十分な堆肥を形成しているというわけだ。これら木々が広く張り巡らす根が、砂土の下に平らに広がっているのである。

さてしかし、樹齢数百年の古木は皆伐されてしまっており、何キロにも及ぶその周りにはたった一本の木さえ残っていなかったため、日々の日照による炎熱と凄まじい降雨が無防備となったこの土地を破壊したのである。入植者達が3年目の年を終え、不毛となった彼らの土地をまたもや去った後では、そこには死と化した砂漠以外の何も残っていなかったのである。

### 3.5 正答

(かっこ) 内記述の凡例：Urwäldern(P13) 複数 3 格, in(3) 前置詞 3 格支配, Tragödie(f1) 女性 1 格, Urwalds(m2) 男性 2 格, Beispiel(n1) 中性 1 格, 等々。

In(3) den südamerikanischen und afrikanischen Urwäldern(P13) hat in(3) den letzten Jahren eine ökologische Tragödie(f1)

begonnen. Die Zerstörung des brasilianischen Urwalds(m2) soll hier als warnendes Beispiel(n1) stehen: Brasilien, ein Land mit(3) stark zunehmender Bevölkerung(f3), braucht für(4) viele Millionen unterernährter Menschen(P12) neue Landwirtschaftsgebiete(P14). Nun gibt es am Amazonas riesige Urwälder(P14) und es ist verständlich, dass man diese unbewohnten Gebiete(P14) nutzbar machen wollte.

Auf einer Fläche von(3) mehreren 10.000 Quadratkilometern(P13) wurden sämtliche(これは形容詞ではなく「数詞」扱いで変化は定冠詞類と同じ) uralten Bäume(P11) abgeholzt oder abgebrannt und die neuen Siedler(P11), arme Leute(P11) aus(3) den unteren Schichten(P13) der Bevölkerung(f2), begannen mit(3) ihrer schweren Arbeit(f3). Im(3) ersten Jahr(n3) bekamen sie reiche Ernten(P14), das zweite Jahr(n1) brachte schon geringere Erträge(P14) und im(3) darauf folgenden Jahr(n3) zeigte sich eine schreckliche Katastrophe(f1). Auf dem Boden, der(m1) mit(3) so großer Mühe(f3) bearbeitet worden war, wuchs nichts mehr. Alle jungen Pflanzen(P11) verwelkten, die neugesäte Saat(f1) vertrocknete im(3) unfruchtbaren Boden(m3). Etwas Unerwartetes(n1) war geschehen? Nein! Der schöne Plan(m1) der brasilianischen Regierung(f2) war ein schwerer Irrtum(m1)! Erst jetzt begann man mit(3) geologischen Untersuchungen(P13) des Urwaldbodens und musste feststellen, es ist Sand, lockerer, trockener Sand(m1)!

Die Frage ist nun, wie solche riesigen Bäume(P11) auf(3) diesem sandigen Boden(m3) überhaupt wachsen konnten. Nach(3) unseren neuesten Erkenntnissen(P13) geschieht das so: In(3) dem feuchten und heißen Klima(n3) vermodern (= verwesen, verfaulen) herabfallende Blätter(P11) und Äste(P11) sehr schnell und bilden ausreichenden(ausreichend を副詞と考えれば「無冠詞」でも OK) Dünger(m4) für die Bäume, deren(P12) weit ausgebreitete Wurzeln(P11) flach unter dem Sandboden liegen.

Nun hatte man aber alle jahrhundertalten Bäume(P14) abgeholzt; im(3) weiten Umkreis(m3) von(3) vielen Kilometern(P13) war kein einziger Baum(m1) stehen geblieben, so dass die tägliche Sonnenhitze(f1) und schwere Regenfälle(P11) den schutzlosen Boden(m4) zerstörten. Nachdem die Siedler nach Ablauf des dritten Jahres(n2) ihr unfruchtbares Land(n4) wieder verlassen hatten, blieb nichts zurück als eine tote Wüste(f1).